



●前代未聞の使いこなし比較試聴レポート

フルテックNCF Booster-Signalの 高度な実践テクニック

～ケーブルの高さで音調をチューニングしよう！

ケーブル周りにこれまでにない大胆なクオリティアップを実現し、世界中で好評を得る新しいコネクター／ケーブルホルダー、フルテックの「NCF Boosterシリーズ」。工夫次第で活用範囲が多彩に広がるこのシリーズを、さらに高度に使いこなす手法が明らかになった。ケーブルの高さで音が調整できるという、注目のテクニックを検証レポートする。

FURUTECH NCF[®]

製品Photo by 田代 法生



FURUTECH
コネクター／ケーブルホルダー
**NCF
Booster-Signal**
¥19,800 (税別)

NCF Boosterシリーズは、電源周りを主軸とした「NCF Booster」と、多様な端子やケーブルをサポートする「NCF Booster-Signal」、そして使いこなし&応用範囲を広げる多彩なオプションで構成。海外高音質レーベル「TRPTK」の録音現場でも全面的に導入。増やすほどに効果が高まり、副作用を出さない魅力は得難いクオリティアップツールとして、アマチュアからプロフェッショナルまで幅広く重宝されている。

フルテックのNCF Boosterシリーズは、各種ケーブルや端子、電源ブラクなどを使って、振動コントロールや静電気対策ができる。再生音のクオリティがかなり上がるので、その効果を体験した人ならば、自分のシステムにも導入したくなるはずだ。そんな拡がりを見せるなか、ケーブルをセッティングする高さによって音のコントロールができるという情報が伝わってきた。これはきちんと検証しなければいけない。

テストは本誌試聴室で行った。レファレンスのアキュフェーズアンプでB&Wの803D3を鳴らすシステムだ。NCF Boosterは、スピーカーケーブルの下、各chごとに3箇所ずつ使用した。最初に、なしの状態を確認して、続いて、最も低い位置で聴き、シャフトバーを2本、3本と延長して聴いていった。

音源は聴き慣れているCD、竹内まりや「クワイエット・ライフ」の「シングル・アゲイン」、エリック・クラプトン「アンブラグド」

●ケーブルの新たなチューニング術
浮かせるだけでなく
高さでも音が変わる！



Text by
鈴木 裕
Yutaka Suzuki



本誌試聴室で、初めにNCF Booster-Signalなしで試聴する。床面はランチングカーペット敷きで、スピーカーケーブルは床と接している

より「ロンリー・ストレンジヤー」、そしてネゼーセガン指揮フィラデルフィア響、トリフォノフがソロピアノの「ラフマニノフ…変奏曲集」から「バガニーニ狂詩曲」。レポートは総合的にまとめている。

① 下から1段目にセッティング

シャフト1段分の高さでは、実在感が出て緻密で高純度

ベース+シャフトバー1本分の高さにクレイドルを固定した状態。まず、NCF Booster-Signalがない時と比較して、透明感が見事に向上する。各楽器の音像同士に癒着がなくなり、多すぎた響きが抑制されて前後の定位がきれいに見えてくる。同時に、音像ひとつひとつの实在感が上がっている。まわりついていた付帯音が解消し、例えばヴォーカルであればその表情がよく見えてくる。ギターやキーボードなど、立ち上がりのごく短い時間に感じる特有の音の成分も緻密に再現。

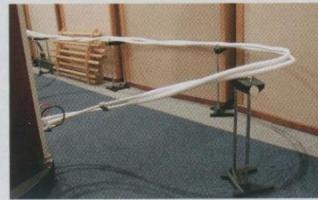
そのまま挿入するだけでもクオリティ大幅アップ
さらに好みの音調へのチューニング手法として
高さの調整という新たな有効策が可能になる！



次に、NCF Booster-Signalを片chあたり3個ずつをスピーカケーブルに挿入する。ケーブルは床面から完全に浮いている。初めはベース+パー1本分の高さで試聴



付属の延長用シャフトバーを使った2本分の高さとして、ケーブル受けのクレイドルフラットを2本目のパーの上のラインに固定して聴く



オプションのエクステンションシャフトバーを用意し、各々2本ずつを追加装着。合計シャフトバー4本分の高さの上のラインにケーブル受けを設定

ベース+シャフトバーの上部に、付属の延長用シャフトバー1本を取り付け、その上にケーブルをセット。ここまではオプション

2段目では倍音成分が増え伸びやかな空間を表現する

② パーの2本目の上にセット

低音はダンピングが効き、特にクラフトン『アンブラグド』では足でリズムを取っている低音と、それが反射して返ってくる最低域の成分がよく分離。擬音語で言うところ「ズシッ」の「ズシ」と「ツ」が明瞭に聴き分けられる。クラシックはホールの残響音の純度が上がり、試験室に対するサウンドステージの枠が大きく広がっている。大太鼓の強打も奥の位置に音像小さめでしっかりと定位。そのエネルギー感の高さも見事なものだ。

4段目は濃密で味わい深くフワツとした空気感を出す

③ パーを2本足して4段目にセット

の追加購入なしでもできる。総合的にはハイファイ性能は若干弱まるが、やや精度は下げつつも聴きやすい音だ。音像はひとつ前よりも若干大きめに、低域のダンピングも甘くなる。ただし、量感タイプの低音成分は増えている、高域のまとまりもよい。音がほぐれている感覚自体はきちんとある。サウンドステージとしては、奥行き方向は多少浅くなるが、それでもNCF Booster-Signalを装着していない状態からすればかなり伸びやかな空間表現力。細部を克明に描写する力は弱まるものの、混濁や歪みといった成分は感じない。

NCF Booster シリール

● 浮かせるだけでない巧みな作り
優れた制振&静電効果が
魅力ある効果を生み出す

ニュアンスとしては中域重視の、やや濃密な感じを持っている。興味深いのは各楽器や声の音色の味わいのような感じが引き出されている点で、例えば竹内まりやでのストリングスの流麗な響きや、ライヴでのオーディエンスの拍手など、なかなか雰囲気がいい。フワツとした空気感が出るのだ。興味深いのは音楽のテンポがゆったり聴こえるのと、音色感としてはやや暖色系になること。大太鼓の音像自体はひとつ前よりもさらに大きくなり、その定位も少し前に来るがエネルギー感自体はきちんと持っている。



[NCF Boosterシリーズの多彩なオプション]
①「TopClamp」(¥13,800、税別)。NCF Booster-Signalに追加し強化可能。ステンレスパウダーを基本材料とし、複数の特殊制振金属パウダーを調合、ナイロン樹脂と複合させ、質量は約295g
②「Cradle-Flat」(¥12,000、税別)。NCF Booster-Signalのケーブルホルダー部の単売品(固定リング2個付属)。追加で自在&複合的な応用ができる
③「Extension Shaft Bar」(¥3,000/10本セット、税別)。1本あたりの高さ59.5mm、手でねじ込むだけで連結可能
④「Shaft Bar Adjuster」(¥3,800/2個、税別)。クレイドル部の高さを微調整、最適化する中継具

[NCF Booster-Signalの仕様]

●クレイドル：フラットタイプ(一番低い位置での高さは44mm)
●外部サイズ：約94.1×99.7mm ●高さ設定：基本82.5mm、延長142mm(オプションで追加可能) ●質量：基本約280g、延長約340g ●構造：独自調合マルチマテリアルハイブリッド構造 ●ベースユニット素材：オーディオグレードABS樹脂、鉄製カウンターウェイト、シリコン注入・鉄製衝撃吸収プレート ●クレイドル素材：オーディオグレードABS樹脂とNCF調合ナイロン樹脂(静電効果) ●シャフトバー、シャフトバーキャップ、調節ネジ素材：ニッケルメッキ真鍮 ●付属品：エクステンションシャフトバー×2、固定リング×2
※NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)は、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を樹脂とハイブリッドさせた、2015年に開発した特殊素材

※本テーマは、秋葉原のAUDIO&VISUAL専門店テレオンとフルテック(株)が共同検証を重ね、その効果の確認を得てのレポート掲載である



姉妹品のNCF Booster (¥32,800、税別)

ズは自宅でも使っていて、感じるのはクレイドル部自体の作りの良さだ。下側がオーディオグレードのABS樹脂、ケーブルと接する上側がNCF調合ナイロン樹脂という、ハイブリッドの素材の組み合わせ。内部を見ると、上側の裏にはダンピングマットを貼ってあり、上から下に適度に振動を伝える柱や共振を避ける壁も設置。なおかつ半密閉型にして、その空気を振動に対する抵抗として利用している。このクレイドル自体の振動コントロールの容量が大きく

い。それに対してベースユニットやシャフトは意外と柔構造というか、大きな振動などをいやす役割を持たせているのではないかと感じてきた。というのも以前、筆者は根太などを支える建築用の部材を使ってケーブルを浮かしたこともあったが、これが何をやって音が変わって辟易したからだ。クレイドルという制振能力の高いものと、柔構造のベースユニットという組み合わせ。この良さが今回のテストでも確認できた。